

12haの稲が枯死、被害は106haにも(8/5現在)

畜産、園芸にも大きな被害

雨不足による渇水が、農地を襲っています。

上越市内では、8月5日現在、水稻で約12haが枯死状態、約35haで葉が巻いている状態など、合わせて約106.6haで被害が生じています。また、柿崎区の養鶏場で7371羽の鶏が暑熱によって死んだほか、旧上越で乳用牛も1頭死んでいます。

こうした事態を受けて、上越市では7月19日に担当部署による天水田等の確認を開始し、8月2日に「緊急干ばつ対策会議」を開催、8月3日には「上越市農地渇水対策本部」を設置して、対策に取り組んでいます。

そして、8月6日の第2回農地渇水対策本部会議では、次の通りの応急対策内容について確認しま

した。

1. 代替の農業用水確保のため、消雪用井戸を利用し給水できるようにする。(金谷区3カ所、頸城区花ヶ崎、三和区西部工業団地、清里区菅原、板倉区針)
2. かん水用機械等の整備に要する経費を支援する。(ポンプやポンプ車の借り上げ、ポンプ・ホース・大型ポリタンクの購入)
3. 新たな用水確保の施設整備に要する経費を支援する。(用水確保工事など)
4. 畜舎の暑熱対策に要する経費を支援する。
5. 水田のかん水に使用したポンプ燃料費を助成する。(J A えちご上越)
6. 被害のあった農作物等の損害を補償する。(農業共済制度)



日本共産党議員団 現地をつぶさに視察

日本共産党議員団は、平良木前市議を含めた4人で、7月30日と8月3日の2回にわたり、渇水被害の激しい大島区、牧区、板倉区の農地を視察しました。

照りつける太陽の下、天水に頼る農地では水の供給を絶たれて土壌が白く乾ききり、大きなひび割れができています。稲も穂をつけることができず、中にはすでに茶色く枯れてしまっているものもありました。

春から田起こし、育苗、田植え、草取りと、精根込めて育ててきた稲が、実をつけずに枯れていく姿は正視できないほどです。

限界はあるというもの、行政として取ることでできる対策も少なくありません。一刻も早く然るべき対策が必要であることを感じました。

2018年8月3日

上越市長 村山秀幸 様

干ばつ被害対策に関する要請書

日本共産党上越地区委員会
委員長 上野 公悦
日本共産党上越市議員団
団長 橋爪 法一
市議会議員 上野 公悦
市議会議員 橋本 正幸

日頃より市政発展のためにご尽力いただき、心から敬意を表します。さて、ご案内のように、上越市内では今回の異常気象によって、稲作、園芸などを中心に深刻な干ばつ被害が広がっています。すでに市当局におかれましても、現地調査などに乗り出しているところですが、関係農家などの要望に基づき、以下の事項についてご検討くださいますようお願いいたします。

記

- 1 被害を受けている圃場などの現地を確認するとともに、関係者の要望をできるだけ具体的につかみ、対策を講じること。また、その結果については、一定の期間を区切って公開すること。
- 2 すでに検討がはじまっていますが、用水確保について、大型タンク導入など少しでも可能性のある対策は最大限、実現に向けて努力すること。
- 3 新潟県とはもちろんのこと、J A、共済組合など関係機関との連携を強め、干ばつ対策を強化すること。
- 4 来季、作付可能とするため、湿地ブルの活用などの支援は十分行うこと。
- 5 中央農業研究センターなど研究機関の見聞も活用させてもらい、より実効性の高い対策を研究し、具体化を図ること。

以上

大型タンク導入なども考慮した対策を 8/3 日本共産党が渇水対策で緊急要請

日本共産党上越市議会議員団と日本共産党上越地区委員会は、8月3日、市役所農林水産部を訪ね、農地の干ばつ被害に関する緊急の要請を行いました。(要請の全文は右の通り)

日本共産党上越市議員団ニュース

No.599 2018年8月12日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
絡 橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
先 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)

要請には農林水産部参事(農政課長)が対応し、「要請はすぐに市長に伝え、できるかぎりの手立てを講じていきたい。市としても本日『農地渇水対策本



部』を立ち上げて、具体的対策に取り組む予定である」と語りました。